

[3 - 1] Don Daeng (ドンデーン) 調査打合せ会の記録

5月28日(土) 午前10時～ 於CSEAS

出席者 (敬称略順不同以下同じ) 石井、口羽、福井、武邑、野間、
宮崎、舟橋、服部、北村、星川、宮川、矢野、黒田、前川、須羽、松藤、
星野、小池、河野

新人紹介 松藤寛之(京都府立大学M1)。10月3日から現地参加予定。

小池聡(京大熱農専攻M1)。現地参加詳細未定。

NSB 調査打合せ会報告 (福井)

(a) 事前調査 (武邑)

項目: 世帯名、職業、農業内容、動物の飼育、調査対象名

(b) ルーティン調査

(b-1) 生活時間調査 (野間)

- 家族数が多く、調査者(野間、宮崎、武邑、須羽、林、アシスタント3～4名)では手不足気味である。
- 調査対象はDD, DH, DNにわたり、名簿作りから始める。
- 行動に関する場所と人を識別したい。聴取内容を直ちにローマナイズし、一部は記号化してコンピュータ入力に備える。
- その他、調査規模縮小の可能性を含め検討中。

(b-2) 簿記調査 (宮崎)

- 前回は、稲作、畑作などセクター別の費用/便益計算のためのデータを集めたが、今回は、経営単位分析に必要なデータを集める。
- 農家の場合、その経済は生産者としての所得部分と消費者としての家計に分れる。両者を含めて調査するが、重点は前者にある。
- NSB サンプルの中から、さらに精査対象農家を選ぶことを考えている。

(c) 戸別調査 (舟橋)

- NSB の 22 戸 + 耕作者 5 名となりうる。小作人、Het Nan Kan により異なる村落から来る者も調査する。
- 個人単位の調査では手に余るなら家族単位調査も考えられるが、それにも問題あり。

現地でのコンピュータ入力 (福井)

- 海田が現在バンコクに持ち込んでいるパソコン (PC - 8001 MkII, ミニフロッピードライブ付) を KKU に置く。
- 入力専門の学生アルバイトを雇う。
- 調査成果は在村のアシスタントにローマナイズさせ、順次入力にまわす。
- 以上の方針は技術的にも可能である。
- 故障の際の代替機を覚悟すること。

NSB.系間調査 (福井, 口羽, 宮川)

- 22 戸の全戸調査が必要か、調査内容、調査期間などについて自然系と社会系の調整が必要である。
- 事前調査の結果等を踏まえて、口羽の現地到着 (7 月 20 日) ごろ現地で検討する。

プロジェクト全体の狙い・枠組 (福井)

(DD NEWSLETTER NO.2)

- たたき台として用意した。
- 全体を 2 重の marginality の観点から把えて一貫させられないか。
- 配慮した点
 - (1) 全体がアカデミカルに興味あるものとなること。(著者および国際的読者にとって。)
 - (2) ドンデーン村を対象とした理由が明らかであること。

(3) 既になされた調査の大部分が有効に生かされること。

- ・ 時間的制約から、全体を貫くテーマの詰めの作業と各調査は、同時進行的に行われなければならない。

コメント (石井)

- ・ 歴史からみて面白い対応が考えられる。
- ・ 東北タイの歴史を4期に分ける。
 1. ~ 1700年の時期。
 2. 1700 ~ 1900: メコン左岸のラーオ族が右岸に移り、東北タイ東南部からChi, Mun 河沿いに上流へ移動した時期。
 3. 1900 - 1960: バンコク政治が東北タイに関与し始める時期。ただし1930年代でも、「東北タイは極めてremoteな地域」であった。
 4. 1960 ~ : 第一次経済開発以降バンコクからの意志が伝わる。大学・病院等の建設、電気の導入(1976)。すなわち、ここ250年位のことを把握すればほぼ足りると言える。
- ・ 福井案は史実と照らして矛盾しない。

北村

- ・ これだけの太転換は不要ではないか。まとめの方針変換で困難な作業を伴う。個別にも各所に難点がある。I部とII部は重ねた方がよかろう。従来扱わないうとしていた計画面がIII部に取り上げられたが、それならばそれなりの調査計画が必要である。

石井

- ・ 本としての目次と、ここに示されたまとめの方針とは別物としてよい。まとめに必要な資料が大量に不足しているとすれば問題であるが。

北村

- ・ 当初の、社会構造と農業構造の関係を明らかにし、dataの総合化を計るという方針はどうなったのか。

福井

- ・ 自然 - 人口 - 経済 - 社会 - 生活という流れの中で実現する。

石井

- III 部は未来に関する事を扱う。II部までに大部分のDataの不足がないならばこの方針は成立しうると考える。

★

村史（福井）

村内に村民による村史編纂委員会を作り、KKU からアドバイザーを頼んで出版という可能性を検討中。

NSB 調査サンプル数

基本を戸別調査とし、特定の項目だけ個人別調査にできないか。DD、DH、DN にわたるので対象が多い。調査すべき期間との関係も重要だ。サンプル農家が協力的であること。自然条件からみて対象農地の分布が適切であること。自然系が早速調査に入って広くやっておき、社会系が努力する。

[3 - 2] 社会班打合せ

5 月 2 8 日（土）午後 2 時～ 於 CSEAS 北棟

出席者 口羽、武邑、野間、宮崎、舟橋、北村、前川、須羽、星野、小池

調査一般

NSB 調査において、重要な項目は、調査用紙 1 枚／人／日とし、それ以外は家族に 1 枚か。行動と場所は抜けないので、「誰と」を抜こうか。自然系に適切な耕地と社会系に適切な人、農家の整合をとりたい。サンプルを限ることによって自然系と社会系の情報交換を容易にする効果、および、DH、DN にも調査が及ぶ点に NSB 悉皆調査のねらいがある。対象者に書いてもらうことは望めぬ。精査はせいぜい 10 軒か。調査者の慣れをみながら徐々に増やす。NSB 内については、水田、畑作スワンも対象とする。家族構成と耕地所有の推移は調査するか。開発順序と耕地の

評価の関係。人口の移入、移出については、先方の土地の特徴を知りたい。

次回

6月10日15時 於宮崎室（農経4階）

[3-3] 農学班打合せ

5月28日（土）午後2時～

出席者 福井、服部、黒田、宮川、松藤、河野、星川、矢野

調査内容の整理と確認

- (1) 水田 ・NSB全筆毎日のルーティン ・NSB以外は周遊コースを定めて、それに沿ってほぼ10日間隔。・精査テストプロットをNSBとKBで、陸稲を含めて約30ヶ所、また、そのほかにも。・収量調査は、部分刈、検見。検見は周遊コース沿に約1000筆。
- (2) 畑 ・全筆の暦調査 ・NSB水田耕作者分の精査
- (3) スワン ・NSB水田耕作者分の毎日のルーティン調査
- (4) その他 ・果樹、水産、養蚕、精米などについて個別の調査を必要とする。
 - ・村内裏庭の野菜畑について、北村班の精査対象農家を含めた経時的観察
 - ・畜産は矢野・福井で別途相談。・ゴザ編など家内工業、綿、燃料、米の二期作なども調査の要あり。・脱穀場の作り方、苗代の作り方など詳しいdescriptionが必要。・水田拡大の歴史、畑の造成、スワンの造成、陸稲、焼畑、古農法、古加工法（洪水年の魚など）について聴取調査すること。

二重のmarginality案について

第III部 Rural Developmentの主題は、そのもっとも基本的な問題に関わるものである。例えば、「農業開発が農村開発に貢献しうるかどうか」と言ったものである。計画論以前の問題である。

[3 - 4] 航空券予約状況

6月2日現在、以下の通り。

- 7月18日発の口羽までは予約OK
- 7/24 福井 TG611 ウェイティング(W/L)。7/25をRQ中。
- 8/1 前川、星野、河野 TG611 W/L、8/2をRQ中。
- 8/15 野間 TG611 W/L、8/16 RQ中。
- 9/15 矢野 TG621 OK
- 10/3 黒田、須羽、松藤 TG611 OK
- 12/1 服部 TG621 OK
- 1/15 舟橋 TG621 RQ中

[3 - 5] 「地域研究と国際農業開発」

別紙のような原稿を書きました。DD研究には直接関係ありませんが、御承知おき願えればよいかと思い、付録にしました。

(以上 文責 前川、福井)

投稿をお待ちしています。